

# 平成 29 年度 第 2 回 山科区民まちづくり会議

日時：平成 29 年 10 月 17 日（火）

午前 10 時～11 時 45 分

場所：山科区役所 大会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 趣旨説明

- (1) 「第 2 期山科区基本計画」の推進について
- (2) 山科区民まちづくり会議の進め方について

### 3 報 告

- (1) 平成 29 年度第 1 回会議 グループ別討議の結果について

### 4 議 論

「第 2 期山科区基本計画」の推進に向けた具体的な施策・事業等の検討

### 5 閉 会

#### <配付資料>

- 資料 1** 「第 2 期山科区基本計画」の推進について
- 資料 2** 山科区民まちづくり会議の進め方について
- 資料 3** 平成 29 年度第 1 回会議 グループ別討議の結果について
- 資料 4** 施策進ちょく評価検証シート【平成 28 年度版】
  
- 参考 1** 平成 28 年度 グループ別討議まとめ
- 参考 2** 京都市山科区民まちづくり会議要綱

## 「第2期山科区基本計画」の推進について

### 1 第2期山科区基本計画【平成23年3月策定】

京都市では、21世紀の京都のまちづくりの指針である「京都市基本構想(21世紀・京都のグランドビジョン)」【平成11年12月】の具体化を図るため、行政区ごとに、区民と行政が目標を共有し、区の個性を生かした魅力あふれる地域づくりを推進するための指針として、地域別計画(区基本計画)を策定している。

山科区では、第1期計画(「山科区フロンティア計画」【13年度～22年度】)を受け継ぎ、平成23年3月に「第2期山科区基本計画」を策定・推進している。

#### <計画期間>

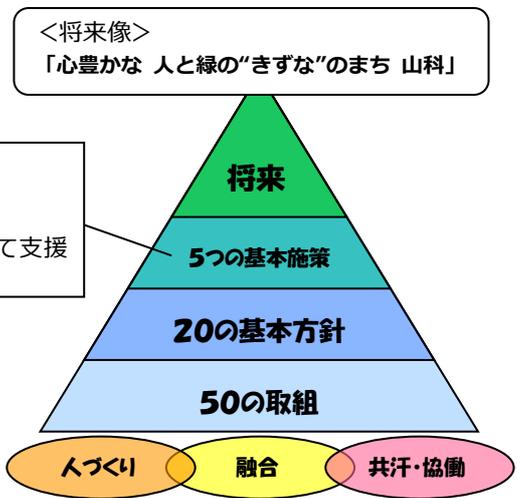
10年間(平成23年4月～平成33年3月)

#### <計画の構成>

- ・ 5つの基本施策
- ・ 20の基本方針
- ・ 50の取組で構成

- ① 環境
- ② まちの魅力・観光
- ③ 交通・都市基盤
- ④ 保健・福祉・子育て支援
- ⑤ 地域のつながり

※ 全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」と相互に補完し合う地域別計画



### 2 山科区民まちづくり会議【平成24年4月～】

#### (1) 設置目的【参考3 京都市山科区民まちづくり会議要綱参照】

「第2期基本計画」を、区民、地域団体、企業、事業者、大学及び行政等の「共汗・協働」により推進するとともに、専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的に設置・開催

#### (2) 役割

- ・ 同計画の進行管理、進ちょく・達成評価
- ・ 区民提案・共汗型まちづくり支援事業の推進に係る提言 等

#### (3) 委員構成【別紙参照】

委員長：小暮宣雄 京都橘大学現代ビジネス学部教授

委員数：33名(29年4月時点) ※オブザーバーとして行政機関職員が12名参加

任期：2年間(28年4月1日～30年3月31日)

※ 「山科区基本計画策定委員会」(第2期計画検討メンバー)を母体に、区内各種団体の代表等を加えて委員を構成

#### <参考> 御意見等を反映した具体的な取組例

アートロードなぎつじ、やましなGOGOカフェ、野菜の直売所のマップ作成 等

## 山科区民まちづくり会議 委員名簿

氏名	所属等	出欠	代理
飯森 千夏	京都橘大学学生	×	
市川 正三	山科区農業団体連絡協議会	×	
岩崎 泰大	山科区自治連合会連絡協議会会長会	○	竹本 武一郎
岩見 眞成	山科防犯協会	○	
植村 義弘	京都市私立幼稚園協会山科地区	○	
大河内清子	一般社団法人京都手をつなぐ育成会山科支部	○	
太田 益富	市民公募委員	○	
岡本 洋	山科の歴史を知る会	○	
影久 拓真	京都薬科大学学生	×	
嶋本 弘文	山科区保育園保育所協議会	○	
川中 長治	一般社団法人山科経済同友会	○	
紀田 貢	山科医師会	×	
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会	○	
栗本 帯子	山科区地域女性連合会	○	
○小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授	○	
小山 好弘	NPO法人おこしやす“やましな”協議会	○	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会	○	
澤田 清一	山科区自治連合会連絡協議会会長会	×	
	山科区交通安全対策協議会		
杉浦 紗生	京都橘大学学生	○	
相馬 映美	京都薬科大学学生	×	
土田 絹枝	山科区老人クラブ連合会	×	
中嶋 恵二	山科区体育振興会連合会	○	
平野 一男	山科少年補導委員会	×	
前坂己美子	山科区民生児童委員会	○	
村井 琢哉	NPO法人山科醍醐こどものひろば	○	
村田 哲子	清水焼団地協同組合	×	
森 正美	京都文教大学総合社会学部教授	×	
森田 武士	山科消防団	○	
柳生 昌保	山科地域防犯推進委員協議会	○	長谷川 喜一
藪下 貴則	京都市中学校PTA連絡協議会山科支部	○	
山本 陽子	京都市児童館学童連盟山科地区	×	
山本 稔	山科美化推進企業協議会	○	
吉川 彰	社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会	○	

○…座長

平成29年9月現在：計33名（50音順・敬称略・兼職含む。）

オブザーバー委員（区内行政関係職員）名簿

氏名	所属等	出欠	代理
朝山 勝人	東部土木事務所	○	
池上 研二	東部農業振興センター	×	
井上 元次	山科消防署	○	
川本 悟	東部文化会館	○	
下岡 薫	京都市立中学校長会山科・醍醐支部	×	
高野 正義	上下水道局東部営業所	○	竹内 公二
中西 哲也	上下水道局みなみ下水道管路管理センター山科支所	○	
中村 國博	山科警察署	×	
奈須 健一	山科まち美化事務所	○	
仁科 周博	山科図書館	○	
山口 亘	京都市小学校長会山科支部	×	
宮川 知子	山科青少年活動センター	○	

事務局名簿

氏名	所属等	出欠	代理
大西利加子	副区長（地域力推進室長・区民部長）	○	
中田 泰司	副区長（保健福祉センター健康福祉部長）	○	
小嶋 明	副区長（保健福祉センター子どもはぐくみ室長）	○	
山下 貴史	地域力推進室 総務・防災課長	○	
人見早知子	地域力推進室 まちづくり推進課長	○	

平成29年度 第2回山科区民まちづくり会議委員 グループ名簿

グループⅠ [環境]

【五十音順・敬称略】

氏名	所属等	代理
栗本 帯子	山科区女性連合会	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会	
山本 稔	山科美化推進企業協議会	
奈須 健一	山科まち美化事務所	
中西 哲也	上下水道局みなみ下水道管路管理センター山科支所	
山下 貴史	山科区役所地域力推進室 総務・防災課長	
谷 亮治	京都市まちづくりアドバイザー	

グループⅡ [魅力・観光]

氏名	所属等	代理
植村 義弘	京都市私立幼稚園協会山科地区	
岡本 洋	山科の歴史を知る会	
川中 長治	山科経済同友会	
小山 好弘	NPO法人おこしやす“やましな”協議会	
森田 武士	山科消防団	
橋間 望	山科区役所地域力推進室	
山本 一貴	京都市まちづくりアドバイザー	

グループⅢ [交通・都市基盤]

氏名	所属等	代理
太田 益富	公募委員	
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会	
中嶋 恵二	山科区体育振興会連合会	
高野 正義	上下水道局東部営業所	竹内 公二
朝山 勝人	東部土木事務所	
大西 利加子	山科区役所副区長(地域力推進室長・区民部長)	
亀村 佳都	京都市まちづくりアドバイザー	

グループⅣ-①[子育て・青少年]

氏名	所属等	代理
嶋本 弘文	山科区保育園保育所協議会	
村井 琢哉	NPO法人山科醍醐こどものひろば	
藪下 貴則	京都市中学校PTA連絡協議会山科支部	
柳生 昌保	山科地域防犯推進委員協議会	長谷川 喜一
宮川 知子	山科青少年活動センター	
小嶋 明	山科区役所副区長(保健福祉センター子どもはぐくみ室長)	
田尾 純子	京都市まちづくりアドバイザー	

グループⅣ-②[障害・高齢・健康・人権]

氏名	所属等	代理
大河内 清子	社団法人京都手をつなぐ育成会	
小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授【座長】	
前坂己美子	山科区民生児童委員会	
吉川 彰	社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会	
仁科 周博	山科図書館	
中田 泰司	山科区役所副区長(保健福祉センター健康福祉部長)	
天岡 昌代	京都市まちづくりアドバイザー	

グループⅤ[地域とのつながり]

氏名	所属等	代理
岩崎 泰大	山科区自治連合会連絡協議会会長会	竹本 武一郎
岩見 眞成	山科防犯協会	
杉浦 紗生	京都橘大学学生	
井上 元次	山科消防署	
川本 悟	東部文化会館	
人見 早知子	地域力推進室 まちづくり推進課長	
佐藤 友一	京都市まちづくりアドバイザー	

<まちづくりアドバイザー>

氏名	プロフィール
天岡 昌代	同志社女子大学大学院文学研究科修了 専門は日本史。地域の歴史文化を活かしたまちづくりが専門
亀村 佳都	キール大学大学院・京都大学大学院修了、青年海外協力隊OB 環境教育・開発教育が専門
佐藤 友一	京都大学大学院修了。住民参加型まちづくりの研究と実践を行い、京都市景観・まちづくりセンター勤務等を経て現職。地域コミュニティの再生が専門
田尾 純子	関西学院大学社会学部卒業後、京都市内の青少年活動センターに11年間勤務 ワークショップやグループワーク、カウンセリングを通じた青少年育成が専門
谷 亮治	立命館大学大学院社会学研究科修了、博士(社会学)。住民参加のまちづくりを研究する傍ら、まちづくりNPO法人に勤務。参与観察手法に基づく支援が専門
山本 一貴	神戸大学大学院修了。同大学研究員、地域公共人材開発機構を経て現職。博士(工学)。 専門は近代建築史、建築論、地域資源の評価・活用方法の開発支援

## 山科区民まちづくり会議の進め方について

## 1 平成 27 年度までの取組

区基本計画に掲げる「50 の取組」ごとに、その達成度について、当会議委員の主観に基づき 4 段階評価を実施

⇒ 上記方法については、委員から 「委員だけで判断するのではなく、無作為に区民を抽出して生の声を聞いてはどうか」、「誰が評価しても適正に評価できる客観的な指標や数値目標を設定してはどうか」といった指摘があった。

## 2 平成 28 年度 of 取組（評価方法の見直し）

【第 1 回会議】 区民アンケート及び客観指標の案についてグループ討議

⇒ 区民アンケート実施（10 月 4 日～10 月 21 日）、客観指標の調査

【第 2 回会議】 区民アンケート及び客観指標の結果等を踏まえ、計画の進ちよく・達成評価、平成 29 年度の具体的な実施事業等についてグループ討議

## ＜区民アンケート（平成 28 年度）＞

- 調査対象：18 歳以上の山科区民 3,000 人 ※29 年度以降は 2,000 人を対象  
（住民基本台帳（平成 28 年 9 月 1 日現在、外国人データを含む）から無作為抽出）
- 調査期間：平成 28 年 10 月 4 日（火）～21 日（金）  
有効回答数：971（回収率：32.4%）

## ＜客観指標＞

50 の取組に対応した 87 の指標を設定（※）

※ 原則 1 取組に対し 1 つ設定。取組の性質上、設定しなかったものもあり

## 3 平成 29 年度以降の取組

① 「区民アンケート」及び「客観指標」の取りまとめ

② 第 1 回会議（9 月 7 日）

「区民アンケート」及び「客観指標」（ともに 28 年度実績）の結果等を踏まえ、5 つの基本施策ごとに分かれてグループ討議

## ＜議論テーマ＞

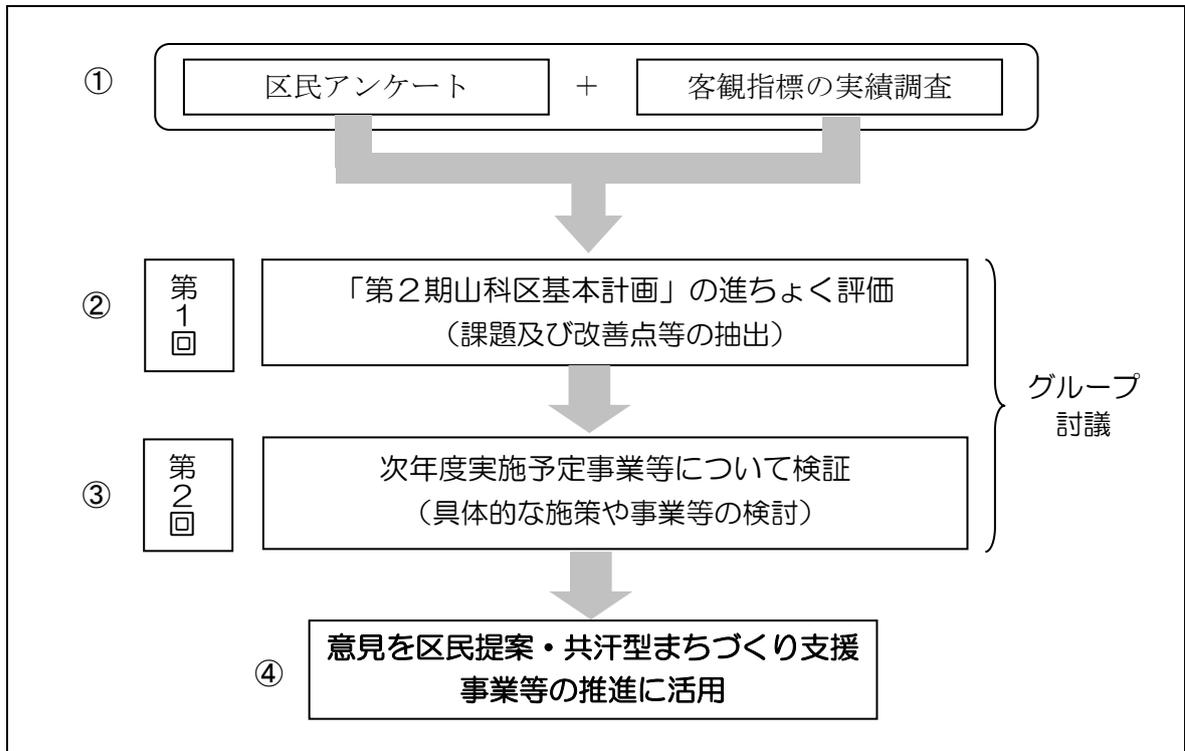
- ・ 「第 2 期山科区基本計画」の進ちよく・達成評価
- ・ 同計画実現に向けた課題及び改善点等の抽出

③ 第 2 回会議（本日）

第 1 回会議を踏まえ、次年度又は将来的に取り組むべき施策・事業等を検討

④ 意見を区基本計画の推進に資する事業等に活用

<平成 29 年度以降の取組フロー>



## 平成28年度区民アンケート 結果のあらまし

※特徴的な結果が表れた質問を抽出しています。

## ① 基本施策1（環境を守り継ぐ）について

## ＜自然環境，環境保全＞

問1 山科区は，街路樹や公園・緑地，水辺空間など自然環境が豊かである。

問2 山科区では，ごみの減量，分別収集など，環境に優しい取組が進んでいる。

(傾向)

両質問とも，肯定的な回答が約6割を占め，自然環境の豊かさや，ごみの減量など，環境に優しい取組に対する区民の評価が高かった。

## ② 基本施策2（まちの魅力・観光を磨く）について

## ＜まちの魅力＞

問7 山科区では，いろいろなひとが，山科のまちに親しみ，まちと暮らしを十分に楽しんでいる。

問10 山科のまちの魅力を高めるために，必要なことは何だと思いませんか。  
(複数回答可)

(傾向)

- ・ 問7は，肯定的な回答が約4割と，否定的な回答（約2割）を上回っており，多くの区民が，山科区を「住みやすいまち」と評価していることが分かった。
- ・ 問10は，「観光資源の掘り起こしなど，観光振興の取組」との回答が最も多かった。

## ＜文化・芸術活動，生涯学習＞

問11 山科区では，気軽に文化・芸術活動を行ったり鑑賞したりすることができる。

問13 山科区は，幅広い世代が気軽に学ぶことができる機会や施設が充実している。

(傾向)

両質問とも，肯定的な回答は約2割に留まる一方で，否定的な回答が3割を超えており，文化・芸術活動や，生涯学習に関する更なる取組が必要と考えられる。

## ③ 基本施策3（交通・都市基盤を強化する）について

## ＜交通安全＞

問14 山科区では，違法駐車や放置自転車が少なく，交通マナーがきちりと守られている。

(傾向)

約半数の人が，「交通マナーが守られていない」と回答しており，違法駐車や放置自転車の改善など，一層の交通マナー向上に取り組む必要がある。

## <公共交通整備>

問16 山科区は、バス・地下鉄などの公共交通機関が整い、自家用車に頼らない移動が便利である。

(傾向)

3割以上の方が、公共交通の利便性に否定的な回答をしており、肯定的な回答は、約4割に留まった。

## (4) 基本施策4 (保健・福祉子育て支援を充実させる) について

### <子育て>

問19 山科区では、子育て家庭のニーズに対応した保育サービスや相談機能が充実している。

問21 山科区を子育てしやすいまちにするために必要なことは何だと思えますか。  
(複数回答可)

(傾向)

子育て支援の取組に関する質問では、肯定的な回答と否定的な回答が拮抗していた。また、必要な支援策としては、「子育て中でも働きやすい就業環境の整備」との回答が最も多かった。

### <学校教育>

問22 山科区では、学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを育てている。

(傾向)

肯定的な回答が4割以上と、否定的な回答(約1割)を大きく上回っており、学校と家庭、地域が一体となり、子どもたちを育てていることが高く評価されている。

## (5) 基本施策5 (地域のつながりを強める) について

### <地域コミュニティ>

問32 山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。

(傾向)

肯定的な回答が5割以上にのぼる一方で、否定的な回答は約1割に留まっており、地域コミュニティが機能しているとの区民の実感が高かった。

### <安心・安全>

問36 山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。

(傾向)

体感治安に関しては、否定的な回答が半数近くあり、「平成28年中の人口当たり刑法犯認知件数(犯罪数)」が11行政区中で2番目に少ないという客観的事実と大きなギャップがあることが分かった。

## 平成 29 年度第 1 回会議 グループ別討議の結果について

**【全般】**

- ・ 客観指標に目標が設定されておらず、各指標の達成度がわからない。
- ・ 実現しようとする目標と、実施している取組との関連性がわかりにくい。
- ・ 学区単位で数値を把握できる資料があった方がよい。

**【I 環境を守り継ぐ】****◆ 課題や改善策について**

- ・ 様々な取組を実施しているが、それぞれの認知度が極めて低い。もっとプロモーションをすべきだ。
- ・ 自家用車の利用が環境への負荷を高めるといふなら、公共交通の充実をはかるべきだ。例えば、バスの本数や路線の見直しも指標に入れるべき。  
⇒ 公共交通に投資する予算をタクシー券にして区民に配布してはどうか。

**◆ 評価方法について**

- ・ ゴミの一斉清掃や、公園愛護会による清掃、参加人数を評価指標としているが妥当なのか。回収したゴミの量や、全公園における清掃が行われている率を指標とすべきではないか。
- ・ 自動車保有台数は横ばいで参考にならない。環境への影響ということ言うなら、むしろ電気自動車の普及度や乗車時間などを指標とすべきではないか。

## 【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

### （１）まちの魅力を高める観光振興の取組

- ・ 山科の観光資源は点として散在（毘沙門堂の紅葉・桜，花山天文台など）し，面になっていない。面になりにくい状況でもある。未だに山科を訪れてもらえるほど，魅力が高まっていない。観光案内の地図でも山科の情報は別枠で掲載されてしまう。
- ・ 面としての総合力を高める必要があり，そのための「観光ルート」が重要。「おいしい食べ物」や「写真に撮りたい風景」が観光地を選ぶ基準となるため，それらを観光ルートで提案できると良い。
- ・ 観光振興を牽引していく観光業者が必要。京都市内中心部に「勝つ」くらいの気概を持つことが必要であり，そのためには何か一点突破できる強いコンテンツが必要だ。
- ・ 観光振興を図るためには，住民の歴史に対する意識を高める大事だ。

### （２）観光基盤の整備

- ・ ホテル等も増えていないし，飲食店もあまり増えていない。
- ・ 飲食店の店舗数は横ばいだが，性質が変わってきている。以前は何でも食べられる店もあったが，近頃はラーメン屋や居酒屋，焼肉屋など，若者向きの専門店が増え，年配の方が好む店が減ってきた。
- ・ 観光客の主流と言われる 60 代女性も食事を大事にし，和食や弁当を好む。
- ・ 琵琶湖通船の本格運航を活用するために，売店の設置などの工夫が必要。

### （３）特産物・農業

- ・ 物販は山科区のものだけでなく，他の行政区のものも併せて売の方がよい。山科ブランドに拘らなくてもいいのではないか。（例：井筒八ツ橋本舗追分店）
- ・ 頑張っている若手農家がいる。区のふれあいまつりなど，イベントに参加させてはどうか。（農産物は旬の時期もあるので，その点は留意が必要）
- ・ 収穫体験や農業指導を行っている農園もある。

### （４）山科の魅力の発信

- ・ 観光マップを作成しているが，食事処がのっていない。
- ・ スマホ等の ICT ツールの活用や，口コミによる宣伝が重要だ。
- ・ 留学生寮に住む外国人に宣伝し，海外に情報発信をしてもらったらどうか。

### （５）文化・スポーツ

- ・ スポーツ施設の利用件数は横ばいだが，区民の実感は「スポーツを楽しむ機会が充実している」とはいい難い。利用されているが，利用者が限られているように思う。
- ・ 高齢化し，楽しみたい文化・スポーツの内容も変わってくるように思う。

### 【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

#### （１）道路を快適にする

##### ① 幹線道路の交通対策

- ・ 稲荷山トンネルが無料化される予定だが、利用者が増える半面、新十条通が込み合い、区内の幹線道路が麻痺するのではないかと心配だ。
- ・ 幹線道路が少なく生活道路が多い。東西は動きやすいが南北に動きにくい。

##### ② 安全で快適な道路空間の整備

- ・ 自転車の移動が便利。山科川の遊歩道など走りやすい道もある。他方、自転車のマナーが悪く左側通行が徹底されないので危険を感じる。
- ・ 生活道路は狭くて、道路案内表示もなく道に迷いやすい。
- ・ 幹線道路は「車専用」、細い生活道路は「車禁止」でもいいのでは。
  - ⇒ カーブミラーが設置されると安全性が高まるのではないか。
  - ⇒ 自転車用の一旦停止を呼びかける標識や表示（「自転車も止まれ」「小さい矢羽根表示」など）を設けてはどうか。

##### ③ 山科を楽しめる歩行者ネットワークの整備

- ・ 歩道が車道（雨水溝）側に傾斜しており、車椅子を押すのに大変だ。
- ・ 歩道が車道より一段高いほうが、子どもには安全ではないか。
  - ⇒ 歩道と車道の色分け、ガードレール等で識別させる方法はある。

#### （２）交通環境を便利にする

##### ① 公共交通ネットワークの充実

- ・ 高速道路上のバス停が廃止になったが、旅行者を誘客するためには復活させたほうが良い。
- ・ 幹線道路沿い以外の交通環境が不便（バスの本数 3 本／1 時間）特に山科の南部地域は交通手段が乏しく“陸の孤島”のような状況だ。
- ・ 循環バスは、同じ方面で巡回するため、バス停によっては遠回りになる。
- ・ 病院行きの無料バスを交通手段としている人もいる。

##### ② パークアンドライド／サイクルライドの促進

- ・ 自転車は便利だが高齢者には向いていない。
- ・ 自転車には「待たない、早い、小回りがきく」というメリットがある。
- ・ 放置自転車がスピーディーに撤去されており数が減少している。一方、自転車の不法投棄も良く見かける。

### (3) 都市環境を充実させる

#### ① 災害に強い都市構造の形成

- ・ 雨水対策が進み、地下貯水池が2箇所（山科三条，五条）設置された。

#### ② 魅力ある拠点づくり

- ・ 地下鉄駅と観光地を結ぶ道案内が乏しく，目的地に辿り着きにくい。
- ・ 観光地に至る道が生活道路になっていることが多く，道順が余計にわかりにくい。
  - ⇒ 山科区公式アプリのルート検索機能を活用してはどうか。そのうえでアプリの周知も必要だ。
  - ⇒ 外国人観光客向けに「山科アプリ」を一部英語対応にし，観光客へアピールしてはどうか。
  - ⇒ 地下鉄駅から観光地までのバスが不便だ。レンタサイクル（電動自転車）を活用できないか。

## 【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援（子育て・青少年）】

### ◆ 進ちよく・達成評価について

#### （１）客観指標について

##### 【客観指標 1-1】

- ・ 1歳6箇月検査を受けていない家庭（子ども）が気がかりだ。一番困っている家庭の状況が把握できていないのではないか。

##### 【客観指標 1-2】

- ・ 保育園や幼稚園に通園していない子どもの数について、アンケートは実施しているが、任意回答のため正確に把握できていない。

##### 【客観指標 1-4】

- ・ 虐待通報から相談対応につながるケースが増えており、その内容も複雑化している。
- ・ 相談後にきっちりと支援につながっているかが重要。行政の担当者が1人で何人のケースを担当しているのかも把握した方がいい。
- ・ 相談件数が増えたことをどう評価するか。様々な捉え方ができるが、関係者間で状況を分析し、相談者の状況を改善につなげていく努力が必要だ。

##### 【客観指標 1-5】

- ・ 交番での駐在やパトロールの頻度が増えたこともあり、少年犯罪検挙人員が大きく減っている。
- ・ 学校では力でおさえこむ指導ではなく、子どもに自己の行為を振り返らせるなどの指導へと変化してきている。
- ・ 警察と小・中学校、市役所等との連携が深まっている。

##### 【その他】

- ・ 広報に関する指標もあった方がよい。

#### （２）区民アンケートについて

- ・ 子育て関連の実感が全般的に良くない。
- ・ 「働きやすい就業環境づくり」は、どの主体がリードして進めるべきテーマなのか。「山科“きずな”支援事業（区民提案型事業）」の採択事業として「パパママ応援企業の情報発信」の取組があったが、民間だけの力では、良い取組でも続かないことがある。
- ・ 地域・区民としてできることがあるのではと感じた。

### ◆ 課題や改善点について

- ・ 困難な課題を抱えるケースは、行政が対応することになるが、人手が足りないのが現状だ。
- ・ 「子ども食堂」などを行っている団体への支援を充実できないか。
- ・ 取組を進めるためには、行政と民間との連携と役割分担が必要だ。

## 【IV-② 保健・福祉・子育て支援（障害・高齢・健康・人権）】

### （1）障害者支援

- ・ 精神障害に関する相談が増加傾向だが、障害の内容が複雑化心身なのか身心なのか障害の種別がわからない。
- ・ 障害者の方が高齢化している。親が亡くなり一人になる方、逆に親の介護をしなければならない方もいる。
- ・ 民生委員の存在を遠く感じる。身近な相談相手として作業所の職員などがあげられる。
- ・ 老人福祉委員は身近な見守りが可能。ただ、ケアをする対象が高齢者であり、障害のある方は障害の種類によって対応方法も異なるため、対応が難しい。  
⇒ 空き家や学生アパートを活用して、障害のある方向けのグループホームを作れないか。

### （2）高齢者福祉

- ・ 高齢者の居場所づくりが進んでいるので、その数も把握すべきではないか。
- ・ 図書館が高齢者の居場所として機能している。終活や介護予防等に関するコーナーを作った。（指標として「貸出本の種類と冊数」も考えられるのでは）  
⇒ 司書のレファレンス力を活用すれば、生活設計（マネープラン）を提供することも可能ではないか。

### （3）健康づくり

- ・ 認知症サポーターの参加者が増えてきている。
- ・ 健康づくりサポーター（キャットハンズ）の活動だが、ウォーキングの参加者が一時期増えたが、また減ってきている。高齢者は、体操の方が参加しやすいようだ。

### （4）人権

人権を尊重する機運が高まっているように感じるが、「そうは思わない」と感じる区民が11.2%もいる。いじめ問題やパワハラなどの課題が影響しているのではないか。

### （5）子育て

児童館に子どもを預けて迎えに来ない親もいる。子育て世代の支援も必要。

## 【V 地域のつながりを強める】

### ◆ 進ちょく・達成評価について

- ・ 刑法犯認知件数や火災発生件数などの安心安全にかかわる項目は、指標の数値は悪くないように思える。
- ・ 指標の数値が良くても、現実の自治会加入率のことを考えると不安で仕方がない。

### ◆ 計画推進に向けた課題や改善点について

#### (1) 自治会の現状について

- ・ 自治会加入率の低下はもちろんだが、それにとどまらず「おはよう」と言える関係が減っていることも課題である。以前は子どものことは町内中の人を知ってくれていた。「ちょっと出かけてきます」と言える関係があった。
- ・ 自治会から脱退する理由は、「役が大変」「加入のメリットが感じられない」「子どもが税調してしまった」などが考えられる。
- ・ 高齢者（一定の年齢以上の人）は、役職を免除するような対策もしているが、それでも脱退する人が多い。自治会が維持できなくて解散するところも出てきた。
- ・ 1年で交代する自治会・町内会の役職と違い、自治連合会の役員は、何年も継続して（会員の）お世話をする側となる。そのために担い手が見つかりにくく、高齢化が進んでいる。
- ・ おやじの会の人たちには、ぜひ福祉分野にも関わっていただきたい。

#### (2) 地域のつながりを維持する工夫

- ・ 「見守り隊」で小学生の時から挨拶をしてくれる子は、中学生になってからも挨拶してくれる。
- ・ 鏡山学区では、学区ボランティアセンターが日常的にご家庭の困りごとに対処しているが、相談を聞く窓口を民生委員や老人福祉委員に任せっぱなしにせず、月1回のふれあい広場や町内会ルートなど、複数の相談窓口を用意している。
- ・ 宇治市の炭山は大きな水害が起きたが、それに対処する経験によって地域の声掛けが進んだ。「タイミングを逃さない」ことが大切。
- ・ 火災報知器の設置が義務化された際、一斉に設置したものが、電池切れや機械の故障などへの対応が必要になっている。その機会を捉えて、地域と高齢者世帯の関係づくりを進めてはどうか。
- ・ 「やましなGOGOカフェ」には若い世代が参加しているが、自治会をテーマに話し合ってもらってはどうか。

第2期山科区基本計画  
**施策進ちよく評価 検証シート [平成28年度版]**

**資料4**

基本施策 ①	環境を守り継ぐ	自然を守り、地球環境に配慮したライフスタイルを、ともにつくっていきます。
--------	---------	--------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)	
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
1	うるおい・自然を大切に する	①まちの水・緑の充実	花いっぱいプロジェクトでのプランター設置数【個】	—	—	—	—	—	1,800	・緑被率＝緑地面積／敷地面積 ・対象：市街化区域内の緑(山科区)前 回調査(H17)時の緑被率:26%  H23、H24はデータなし 清掃回数については、4月から12月の 実績  BOD(生物化学的酸素要求量):河川 の有機汚濁の代表的な指標(数値が 小さいほど、汚濁が少ない)、0.5が数 値の下限  市保全基準達成状況は、水城内の全 測定地点で75%水質値を満たしてい るか否かで評価(満たしていれば○、満 たしていなければ×)  H28年度分は平成30年4月公表予定	
			山科区フラワーロード推進事業花苗植数【個】	5,030	5,220	5,140	5,190	5,266	6,133		
			緑被率【%】	—	—	—	—	25	—		
		②公園・緑地等の整備と適切 な管理	公園愛護協力会による公園の清掃回数【回】	—	—	2,164	2,243	1,975	2,206		
③自然環境の保全・回復	山科川におけるBOD(生物化学的酸素要求量)の75%水 質値【mg/L】	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5				
	山科川における京都市環境保全基準の達成状況	○	○	○	○	○	○				
2	地球環境問題対策の ため行動する	①低炭素社会づくりによる地 球温暖化対策の推進	自動車保有台数(自家用乗用車及び軽自動車のみ)【台】	50,533	50,533	50,767	50,646	50,545	—		
			京都市住宅用太陽光発電システム助成件数【件】	117	179	142	130	85	55		
3	ごみを減らし、まちを きれいに する	①ごみの発生抑制と資源循環 型社会の構築	ごみの受入量【t】	(488,823)	(481,211)	(472,183)	(461,415)	(439,606)	(417,273)	全市の受入量 (山科区のみデータなし)	
			②廃棄物対策の充実と環境美 化	使用済てんぷら油の回収量【L】	21,353	21,432	22,190	19,435	20,107	21,958	全市の回収量 (山科区のみデータなし)
				使用済乾電池の回収量【t】	(74)	(90)	(85)	(89)	(95)	(99)	全市の回収量 (山科区のみデータなし)
				2万人まち美化作戦の参加人数【人】	15,856	17,300	16,568	16,554	16,296	15,170	全市の回収量 (山科区のみデータなし)
山科エコまちステーション及び山科まち美化事務所での清 掃用ゴミ袋の配布枚数【枚】	(18,810)	(25,580)	(18,900)	(18,981)	(20,860)	(29,499)	全市の回収量 (山科区のみデータなし)				
4	環境について学ぶ	①環境学習の充実	ごみ減量エコバスツアーの参加者数【人】	102	125	330	315	329	259	エコライフチャレンジ:各家庭で、子 ども達がマイバッグの持参などのエコライ フにチャレンジし、その結果を子ども版 環境家計簿「子どもエコライフチャレン ジ」に記入する授業	
			小学校での環境学習(子どもエコライフチャレンジ)の時間 数【時間】	39	39	39	39	39	39		

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
1	山科区は、街路樹や公園・緑地、水辺空間など自然環境が豊かである。	21.0% (204)	37.0% (359)	20.4% (198)	12.4% (120)	7.2% (70)	2.1% (20)	
2	山科区では、ごみの減量、分別収集など、環境に優しい取組が進んでいる。	20.1% (195)	39.2% (381)	26.2% (254)	7.7% (75)	4.8% (47)	2.0% (19)	
3	山科区は、散乱ごみが少なく、美しいまちである。	11.3% (110)	33.6% (326)	30.6% (297)	14.2% (138)	9.4% (91)	0.9% (9)	
4	山科区では、学校や地域において、環境について学ぶ機会が充実している。	5.6% (54)	18.3% (178)	44.4% (431)	12.9% (125)	7.9% (77)	10.9% (106)	

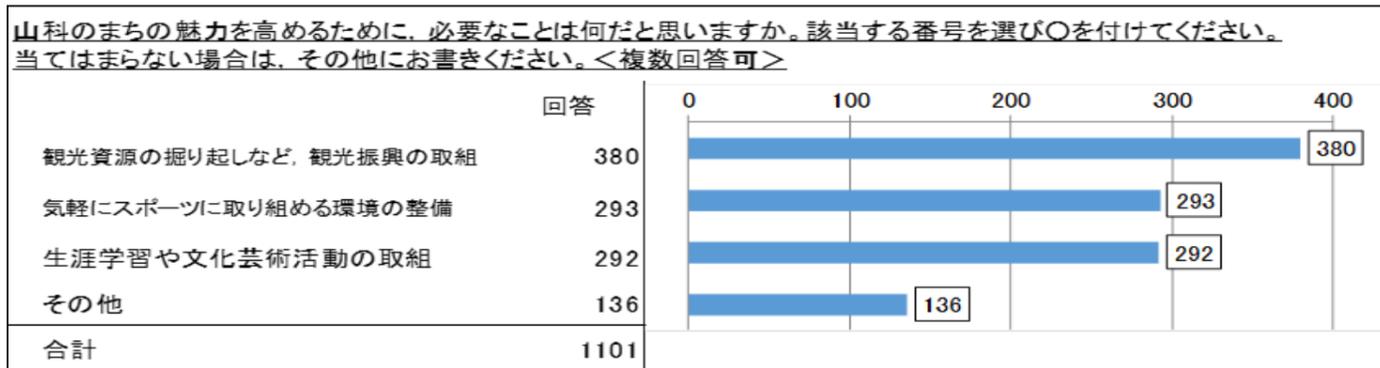
基本施策 ②-1	まちの魅力・観光を磨く (観光・伝統産業)	山科のまちの魅力資源を磨き高めて、区内外への総合的な発信を図っていきます。
----------	--------------------------	---------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	山科の魅力・観光を育てる	①山科の魅力の発信	おこしやすやましな協議会HPのアクセス件数【件】	—	20,747	25,791	28,240	30,094	29,233	H23年度はデータなし  ・京都観光総合調査(訪問地調査は各年4回実施) ・H23, H24はデータなし(同調査における訪問地の選択肢になし)  民間団体(2団体)及び“ふれあい”山科実行委員会主催分の合計  数値は2年ごとに把握(経済センサス) 京都府旅館ホテル生活衛生同業組合への登録数 京都府旅館ホテル生活衛生同業組合への登録数
			おこしやすやましなマップ(簡易マップ)の配布枚数【枚】	14,000	18,720	12,090	20,700	5,550	10,300	
			京都市に訪れた観光客のうち、「山科周辺」を訪問したと回答した観光客の割合【%】	—	—	7.3	3.4	2.7	2.2	
		②歴史資源等の保全・活用と新たな魅力づくり	京都観光1日乗車券【山科・醍醐拡大版】販売枚数【枚】	461	489	785	796	1,256	1,371	
			歴史・文化資源等を巡るまち歩き事業の開催件数【件】	13	12	26	23	19	26	
			市設置の観光案内板の新規設置数【個】	1	1	1	3	6	7	
		③観光基盤の整備	飲食店数【事業所】	—	512	—	530	—	—	
			旅館・ホテル施設数【施設】	1	1	1	1	1	1	
			旅館・ホテル定員数【人】	200	200	200	200	200	200	
2	伝統産業・農業を守る	①伝統産業の活性化と観光活用	清水焼の郷まつり来場者延べ数【人】	55,000	90,000	65,000	92,000	85,000	68,000	H28年度分は H30年2月公表予定  H28年度分は H30年2月公表予定  H28年度分は H30年2月公表予定  H28年度分は H30年2月公表予定  データなし
			②農地の保全と観光農業の展開	野菜の年間収穫量【t】	2,293	2,296	2,296	2,300	2,297	
		野菜の年間販売数量【t】		1,620	1,621	1,621	1,624	1,624	—	
		耕地面積【ha】		166.6	164.5	162.9	160.6	158.4	—	
		勧修寺観光農園来園者数【人】		15,093	14,075	12,568	14,378	14,725	13,263	
		③伝統産業・農業の担い手支援	農家戸数【戸】	471	468	466	464	464	—	
			農業従事者の平均年齢【歳】	—	—	—	—	—	—	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
5	山科区では、近年、京焼・清水焼等の伝統産業の魅力が増し、後継者や担い手の育成が進んでいる。	2.8% (27)	14.6% (142)	41.4% (402)	14.8% (144)	9.5% (92)	16.9% (164)	
6	山科区では、農産物の地産地消や食育の取組が進んでおり、農業や山科産農産物を身近に感じることができる。	9.3% (90)	27.2% (264)	29.1% (283)	18.8% (183)	9.9% (96)	5.7% (55)	
7	山科区では、いろいろなひとが、山科のまちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる。	8.0% (78)	30.1% (292)	37.1% (360)	11.3% (110)	8.2% (80)	5.3% (51)	
8	山科区では、歴史や行事、自然、伝統産業などの観光資源が有効に活用されている。	6.4% (62)	27.3% (265)	34.9% (339)	16.8% (163)	7.9% (77)	6.7% (65)	
9	山科区では、NPOやボランティア、大学などが連携し、観光客をもてなす体制が整えられている。	2.7% (26)	15.2% (148)	37.3% (362)	19.9% (193)	14.1% (137)	10.8% (105)	



基本施策 ②-2	まちの魅力・観光を磨く (文化・スポーツ)	山科のまちの魅力資源を磨き高めて、区内外への総合的な発信を図っていきます。
----------	--------------------------	---------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	文化・学びを豊かにする	①わがまち山科を知る機会の充実	【再掲】歴史・文化資源等を巡るまち歩き事業の開催件数【件】	13	12	26	23	19	26	民間団体(2団体)及び“ふれあい”山科実行委員会主催分の合計
		②生涯学習活動の展開	アスニー山科主催事業延べ受講者数【人】	24,376	23,922	23,975	25,056	25,131	26,102	
			山科図書館の入館者数【人】	217,464	215,730	210,736	220,591	229,911	228,793	
2	遊び・スポーツを楽しむ	①区民スポーツの振興	市営スポーツ施設(東野公園, 山科地域体育館, 勸修寺公園)の利用件数【件】	8,286	8,474	8,683	8,896	8,551	8,775	
			体育振興会主催のスポーツ大会(区民歩こう会などのイベントを含む)の参加者数【人】	1,442	1,410	1,220	1,238	1,370	1,927	
		②スポーツ・レクリエーションのリーダー養成	京都市スポーツ推進指導員数【人】	47	49	49	49	48	49	
			京都市スポーツ推進指導員充足率【%】	100	100	100	100	100	100	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか というと そう思う	どちらとも いえない	どちらか というと そう思わない	そう思わない	無回答	備考
11	山科区では、気軽に文化・芸術活動を行ったり鑑賞したりすることができる。	4.8% (47)	15.2% (148)	33.4% (324)	21.3% (207)	14.0% (136)	11.2% (109)	
12	山科区は、スポーツを楽しむ機会が充実している。	2.6% (25)	17.5% (170)	33.1% (321)	21.7% (211)	13.5% (131)	11.6% (113)	
13	山科区は、幅広い世代が気軽に学ぶことができる機会や施設が充実している。	2.1% (20)	12.3% (119)	37.5% (364)	21.6% (210)	13.9% (135)	12.7% (123)	

基本施策 ③	交通・都市基盤を強化する	道路・交通環境の利便性と快適性を向上させながら、災害に強く、都市的環境と住環境の調和したまちをつくっていきます。
--------	--------------	--

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	(1)道路を快適にする	①幹線道路網の交通対策	稲荷山トンネル利用台数(1日平均)【台】	4,600	5,600	6,500	6,700	7,200	7,500	道路交通センサ調査 (5年毎に実施)  H27以前はデータなし  H28年度分は H30年4月公表予定  データなし  数値は各年1月～12月の実績  数値は各年1月～12月の実績
			自動車類の交通量(路線:一般国道1号, 観測地点:山科区音羽野田町, 24時間(平日))【台】	55,067 (H22の調査結果)	—	—	—	—	51,362 (H27の調査結果)	
		②安全で快適な道路空間の整備	カーブミラー設置個数【個】	—	—	—	—	—	1,086	
			歩道の整備距離【m】	42,324.6	42,350.4	42,482.8	42,391.5	42,466.5	—	
		③山科を楽しめる歩行者ネットワークの整備	歩道のバリアフリー化率【%】	—	—	—	—	—	—	
		④交通安全対策の強化	交通事故発生件数【件】	911	673	658	576	472	383	
			交通事故死者数【人】	2	1	4	1	3	2	
		2	(2)交通環境を便利にする	①公共交通ネットワークの充実	区内鉄道駅の乗降客数(1日平均)【人】	115,843	115,363	118,952	119,827	
・区内地下鉄駅の乗降客数(1日平均)【人】	79,396				79,995	80,114	82,092	84,232	85,959	
地下鉄御陵駅の乗降客数(1日平均)【人】	7,924				7,818	7,782	8,093	8,194	8,146	
地下鉄山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	40,701				41,028	40,887	41,514	42,737	43,490	
地下鉄東野駅の乗降客数(1日平均)【人】	10,360				10,392	10,305	10,680	10,810	11,169	
地下鉄柳辻駅の乗降客数(1日平均)【人】	14,117				14,413	14,614	15,066	15,622	16,151	
地下鉄小野駅の乗降客数(1日平均)【人】	6,294				6,344	6,526	6,739	6,869	7,003	
・JR山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	31,672				32,129	33,227	32,798	33,912	—	
・京阪山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	4,775				3,239	5,611	4,937	4,937	—	
②パークアンドライド/サイクルライドの促進	市営自転車駐車場(東野駅, 御陵駅南・北, 柳辻駅, 小野駅)の利用台数【台】			297,684	288,550	275,228	294,012	283,088	288,924	
放置自転車の撤去台数【台】	1,748	1,719	1,638	1,067	642	643				
浜大津駅前(明日都浜大津公共駐車場, 浜大津公共駐車場)での京阪電車と連携したパークアンドライド利用台数【台】	10,951	10,974	10,156	9,997	8,838	7,732				
3	(3)都市環境を充実させる	①災害に強い都市構造の形成	床下浸水発生件数【件】	0	0	167	1	0	0	JR山科駅及び京阪山科駅については、H28年度分はH30年4月公表予定  ・全市の受入量(山科区のみはデータなし) ・H23, H24, H25はデータなし
			東部土木事務所における町内会等への土のう袋提供件数【件】	470	465	540	1,990	353	511	
		②魅力ある拠点づくり	【再掲】区内鉄道駅の乗客数(1日平均)【人】	115,843	115,363	118,952	119,827	123,081	—	
③良好な景観の保全と創出	違法な屋外広告物の件数【件】	—	—	—	(12,794)	(7,468)	(4,062)			

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
14	山科区では、違法駐車や放置自転車が少なく、交通マナーがきちっと守られている。	3.8% (37)	20.3% (197)	20.8% (202)	23.8% (231)	24.4% (237)	6.9% (67)	
15	山科区は、歩道や水辺の空間など、まちの魅力を歩いて味わうことができる環境が整っている。	7.6% (74)	27.4% (266)	28.8% (280)	16.4% (159)	11.5% (112)	8.2% (80)	
16	山科区は、バス・地下鉄などの公共交通機関が整い、自家用車に頼らない移動が便利である。	19.4% (188)	25.0% (243)	16.5% (160)	17.2% (167)	15.6% (151)	6.4% (62)	
17	山科区では、大雨時にも安心できる治水対策が進んでいる。	5.4% (52)	20.6% (200)	35.6% (346)	16.1% (156)	9.4% (91)	13.0% (126)	
18	山科区は、個性的なまちなみや景観が守られ、美しいまちである。	3.6% (35)	21.6% (210)	36.3% (352)	18.0% (175)	10.8% (105)	9.7% (94)	

基本施策 ④-1	保健・福祉・子育て支援 (子育て・青少年)	だれもがバリアのない気持ちの良いまちで、自ら築くワーク・ライフ・バランスのもとに、いきいきと暮らせる地域社会をつくっていきます。
----------	--------------------------	--

1 客観指標

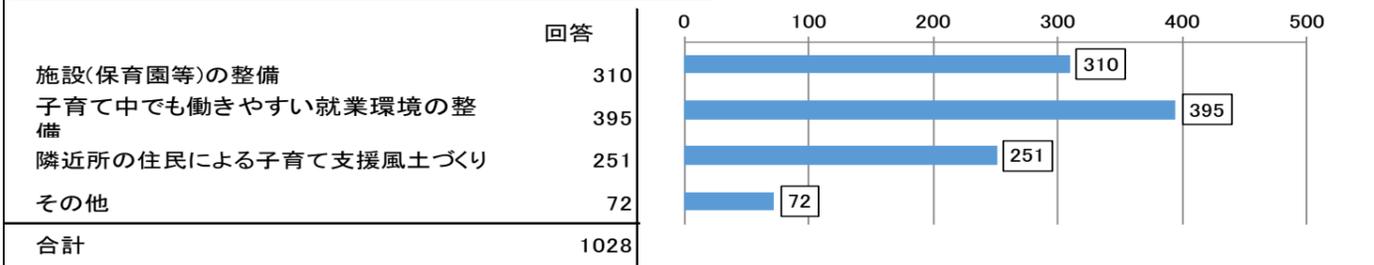
番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	子どもと子育てを応援する	①母子保健の充実	1歳6箇月児健康診査受診率【%】	94.3	95.3	95.6	94.7	96.8	97.3	
			②就学前教育・保育の充実	保育所待機児童数(年度当初)【人】	0	0	0	0	0	
		保育所(園)等施設数【施設】		20	20	20	20	25	29	
		保育所(園)等定員数【人】		2,540	2,560	2,580	2,585	2,812	2,853	
		③放課後児童対策の充実	放課後まなび教室登録児童数【人】	954	958	956	994	1,014	1,071	
			「子ども食堂」の箇所数【箇所】	—	—	—	1	1	3	
			「子ども食堂」の開催回数【回】	—	—	—	24	24	31	
		④地域子育て支援の充実	やましなこ誕生おめでとう事業訪問件数【件】	—	—	—	—	48	181	
			山科子ども支援センター総合相談対応件数【件】	192	213	228	206	262	306	
			やましなっこひろば実施回数【回】	—	4	7	8	5	8	
			やましなっこひろば参加者数【人】	—	170	222	302	244	455	
			子育て支援活動いきいきセンター(つどいの広場)事業利用者数【人】	13,739	16,519	16,239	16,107	16,884	17,583	
			虐待通報件数【件】	155	170	135	118	138	156	
		⑤学校教育等の充実	小・中学校での土曜学習における学習・体験活動の実施校数(小中学校)【校】	19	19	19	19	19	19	
			小・中学校での京の子ども「かがやき」創造事業における体験活動の実施校数(小中学校)【校】	11	11	12	13	13	14	
		⑥青少年の健全育成	山科青少年活動センターにおける青少年(中学生から31歳未満)の利用者数【人】	52,812	54,917	54,294	53,440	49,681	47,561	
			山科青少年活動センターにおける青少年(中学生から31歳未満)の事業参加者数【人】	14,275	14,707	11,833	9,255	10,319	12,379	
			少年犯罪検挙人員【人】	(1,305)	(1,021)	(793)	(770)	(478)	—	
少年犯罪補導人員【人】	(282)		(268)	(248)	(222)	(117)	—			

・全市の人数  
(山科区のみデータなし)  
・H28年度分は  
H30年4月公表予定

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
19	山科区では、子育て家庭のニーズに対応した保育サービスや相談機能が充実している。	2.3% (22)	15.3% (149)	38.9% (378)	13.2% (128)	5.3% (51)	25.0% (243)	
20	山科区では、子育てサロンなど、子育て世帯を支援する活動が活発である。	2.6% (25)	12.9% (125)	39.3% (382)	13.1% (127)	5.5% (53)	26.7% (259)	
22	山科区では、学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを育てている。	7.1% (69)	33.2% (322)	32.5% (316)	9.0% (87)	4.3% (42)	13.9% (135)	
23	山科区では、若者が活動する場や情報が十分に提供されている。	0.8% (8)	9.1% (88)	40.1% (389)	22.0% (214)	12.4% (120)	15.7% (152)	
24	山科区では、子どもの非行防止の取組が充実している。	1.9% (18)	10.8% (105)	36.3% (352)	19.1% (185)	16.9% (164)	15.1% (147)	

山科区を、子育てしやすいまちにするために必要なことは何だと思えますか。該当する番号を選び○を付けてください。当てはまらない場合は、その他にお書きください。＜複数回答可＞



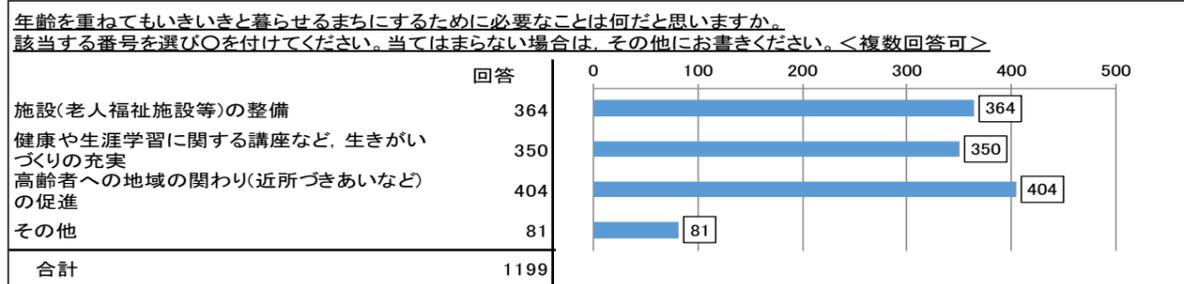
基本施策 ④-2	保健・福祉・子育て支援 (障害・高齢・健康・人権)	だれもがバリアのない気持ちの良いまちで、自ら築くワーク・ライフ・バランスのもとに、いきいきと暮らせる地域社会をつくっていきます。
----------	------------------------------	--

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	障害のあるひとの社会生活を応援する	①障害のあるひととその家族への生活支援の充実	日中活動系障害福祉サービス利用者数【人】	542	663	695	743	747	751	東部圏域(山科, 醍醐, 東山)での相談件数  障害者優先調達推進法(H24年公布)以前のデータなし
			障害者地域生活支援センター(東部圏域)相談件数【人】	14,951	16,152	19,705	25,782	34,497	34,420	
		②障害のあるひとの社会参加を守る環境づくりの推進	【再掲】日中活動系障害福祉サービス利用者数【人】	542	663	695	743	747	751	
			障害者就労施設等への調達件数【件】	-	2	10	13	16	15	
2	高齢期の暮らしの安心と生きがいをつくる	①高齢期の活動拡大の応援	山科老人福祉センター利用者数【人】	29,099	28,307	28,033	28,808	28,343	28,022	
			山科中央老人福祉センター利用者数【人】	40,349	42,934	43,450	43,667	43,579	47,509	
			知恵シルバーセンター紹介者数【人】	-	239	321	366	423	553	
		②高齢期の生活と家族支援の充実	要支援認定者数【人】	1,637	1,853	2,057	2,214	2,267	2,294	
			認知症サポーター養成講座開催回数【回】	14	14	16	30	28	29	
			認知症サポーター養成講座参加者数【人】	467	522	476	987	862	1,134	
3	区民の健康をつくり、守る	①健(検)診の実施と健康教育・相談の充実	【再掲】1歳6箇月児健康診査受診率【%】	94.3	95.3	95.6	94.7	97	97	各年10月1日現在の数値  各年10月1日現在の数値  京都市AEDマップ(H27年度以前はデータなし)  H27の会場は京都薬科大学で実施(それ以外は東部文化会館で実施)  H23年度はデータなし  国の基準では、1日利用者の平均が3,000人以上の駅をバリアフリー化の対象としている。  国の基準では、1日利用者の平均が3,000人以上の駅をバリアフリー化の対象としている。
			保健センターにおける健康診断診査延人員	4,102	3,959	2,939	3,792	3,745	4,439	
			キャット・ハンズと歩く健康ウォーキング参加者数【人】	-	-	96	135	140	97	
		②地域医療体制の充実	病院数【施設】	7	-	7	7	7	7	
			一般診療所数【施設】	115	111	109	108	110	105	
			AED設置箇所数【箇所】	-	-	-	-	-	145	
4	みんなにやさしいまちにする	①人権文化が息づくまちづくり	人権啓発イベント(12月人権月間)参加者数【人】	360	355	280	550	137	315	
			②男女共同参画社会づくりの推進	ワーク・ライフ・バランスの取組が認証基準点(130点)以上の企業の数【企業】	-	81	114	154	181	
		③ユニバーサルデザインの普及、推進	公共施設における磁気誘導ループの設置施設数【施設】	2	2	2	2	2	3	
			駅のバリアフリー化状況(段差が解消されている駅数)【駅】	8	8	8	8	8	8	
			駅のバリアフリー化状況(車いすトイレ設置駅数)【駅】	7	7	7	7	7	7	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
25	山科区では、障害のある人、また、その家族を支える生活支援が充実している。	4.0% (39)	16.7% (162)	41.7% (405)	13.0% (126)	7.5% (73)	17.1% (166)	
26	山科区では、障害のある人の社会参加を守る環境づくりが進んでいる。	2.7% (26)	15.3% (149)	42.8% (416)	11.8% (115)	8.8% (85)	18.5% (180)	
27	山科区では、利用しやすく、相談しやすい医療体制が充実している。	6.0% (58)	25.4% (247)	34.8% (338)	15.7% (152)	9.5% (92)	8.7% (84)	
28	山科区では、普段の生活の中で人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いている。	2.0% (19)	12.8% (124)	43.5% (422)	15.4% (150)	11.2% (109)	15.1% (147)	
29	山科区では、高齢者や、その家族を支えるサービスを行う施設が充実している。	6.1% (59)	26.6% (258)	34.1% (331)	13.1% (127)	8.2% (80)	11.9% (116)	
30	山科区では、高齢者の地域活動への参加や、それに対する支援が充実している。	6.4% (62)	24.7% (240)	39.3% (382)	10.6% (103)	6.7% (65)	12.3% (119)	



基本施策 ⑤	地域のつながりを強める	さまざまな地域のつながりを強め、自治力・福祉力のある元気な山科区のまちづくりを進めていきます。
--------	-------------	---

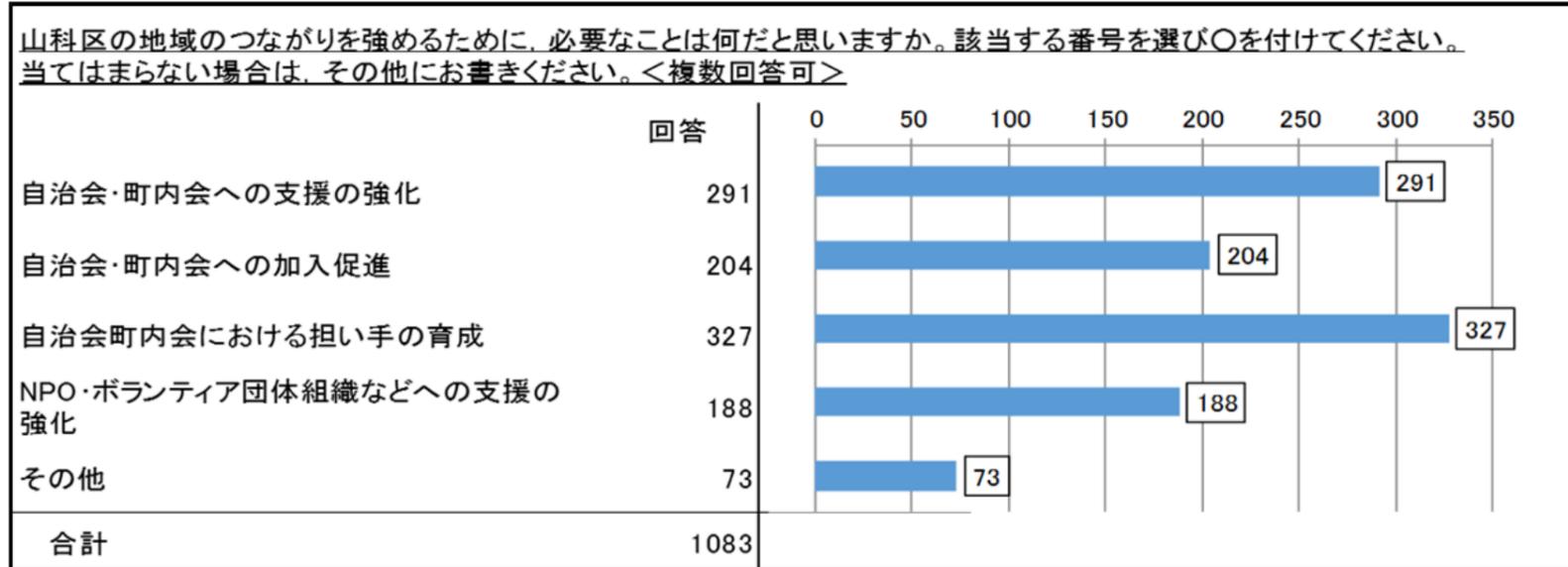
1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)	
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
1	自治の仕組みを強化する	①地域コミュニティによる自治活動の展開	自治会加入率【%】	-	70	69	68	68	68	H23はデータなし	
2	市民活動を活発にする	①NPO・ボランティア活動等の展開支援	NPO法人数(事務所所在地が区内の法人)【法人】	48	47	45	48	48	51		
			区ボランティアセンター相談件数【件】	32	68	31	45	74	115		
			山科“きずな”支援事業の採択件数【件】	-	20	39	42	36	35		
			やましなGOGOカフェの参加者数【人】	-	-	-	199	242	140		
		②大学・地域・行政の連携強化	区役所が行う区内大学との連携事業件数【件】	-	-	-	6	9	17		
3	地域ぐるみで暮らしの安心を守る	①地域の福祉力の強化	社会福祉協議会の賛助会費額【円】	14,108,040	14,003,250	14,206,220	13,440,250	13,225,400	13,037,900		
			フリースペースの設置箇所数【箇所】	-	3	3	10	11	13		
			フリースペースの利用者数【人】	-	554	2,618	2,946	4,223	4,924		
		②地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実	刑法犯認知件数【件】	2,091	1,691	1,605	1,413	1,234	869	数値は各年1月～12月の実績	
			③地域防災・危機管理体制の強化	火災発生件数【件】	11	22	20	17	11	21	数値は各年1月～12月の実績
				消防団員数【人】	228	234	232	235	243	254	
			区総合防災訓練参加者数【人】	450	320	450	500	2,139	330	H27年度は京都市総合防災訓練として実施	
4	区役所をはじめ、行政機関を生活の身近にする	①協働まちづくり推進の体制強化	山科“きずな”支援事業の申請件数【件】	-	44	46	49	40	41		
			【再掲】やましなGOGOカフェの参加者数【人】	-	-	-	199	242	140		
		②行政サービスの利便性向上	区役所ホームページアクセス件数【件】	179,418	286,909	303,491	294,165	306,867	286,291	H28年度は、組織改正により再編された所属(旧衛生課等)を除くアクセス件数	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
32	山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。	15.0% (146)	36.6% (355)	27.3% (265)	7.3% (71)	3.3% (32)	10.5% (102)	
33	山科区では、町内会や自治会等の地域の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみあっている。	5.5% (53)	23.3% (226)	38.3% (372)	9.9% (96)	5.7% (55)	17.4% (169)	
34	山科区では、NPOやボランティア組織など、多様な担い手が活発に活動している。	3.2% (31)	15.1% (147)	38.2% (371)	14.0% (136)	6.5% (63)	23.0% (223)	
35	山科区では、大学の市民向けの講座や地域との交流が行われるなど、大学が身近に感じられる。	3.6% (35)	13.3% (129)	27.7% (269)	21.3% (207)	15.8% (153)	18.3% (178)	
36	山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。	3.4% (33)	16.4% (159)	25.1% (244)	22.3% (217)	24.0% (233)	8.8% (85)	
37	山科区では、平常時から、地域ぐるみで暮らしの安心を守る仕組みが充実している。	1.8% (17)	16.2% (157)	37.1% (360)	18.3% (178)	11.9% (116)	14.7% (143)	
38	山科区では、防災訓練や連絡網の整備など、災害に備える取組が充実している。	4.3% (42)	25.5% (248)	33.6% (326)	16.8% (163)	7.2% (70)	12.6% (122)	
39	山科区では、災害発生時に、地域ぐるみで支えあう仕組みが充実している。	2.4% (23)	19.6% (190)	35.1% (341)	18.2% (177)	9.9% (96)	14.8% (144)	
40	山科区では、市や区の施策や事業等について、企画段階から参画する機会が十分にある。	1.5% (15)	7.0% (68)	35.8% (348)	18.0% (175)	13.2% (128)	24.4% (237)	
41	山科区役所では、便利で、区民の立場に立った円滑な行政サービスが提供されている。	5.7% (55)	21.1% (205)	32.7% (318)	14.8% (144)	9.6% (93)	16.1% (156)	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)



## 平成 28 年度 第 1 回山科区民まちづくり会議 グループ別討議まとめ

### 【 I 環境を守り継ぐ】

#### 1 「第 2 期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

##### (1) 区民アンケート（案）について

- 環境分野は、学区ごとの差が大きいと考えられるため、学区ごとの意見を集計することが必要。学区ごとの意見が分かれば、次年度からの取組に活かすことができるのではないかな。
- 環境分野についても、追加質問の欄を設けて、多様な意見を聞けるようにしてはどうか。
- 回答率 3 割では実感が把握し切れないのではないかな。対象者に郵送するだけでなく、直接渡してできるだけ回答してもらいたいのではないかな。

##### (2) 客観指標（案）について

- 「ごみの排出量」は分かりやすい指標でよいと思う。
- 公園愛護協力会の清掃回数では、区民の自主的な公園清掃が数値に反映されないため指標として問題があるのではないかな。
- てんぷら油の回収量に、乾電池の回収等様々な指標を加えて、ごみの発生抑制について総合的に判断するべきではないかな。
- 環境美化の取組について、「2 万人まち美化作戦」の参加人数や、「エコまちステーションで配布している清掃用ごみ袋の配布枚数」を指標にしてはどうか。
- 環境学習の分野については、「小学校、中学校の環境学習の時間数」を指標にしてはどうか。
- 地球温暖化対策の推進の分野については、「自動車保有台数」ではなく、「敬老乗車証の申請件数」にしてはどうか。

#### 2 「第 2 期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 山科では、ごみの分別は進んでおり、まちもきれいである。一方で、CO2 排出量の削減は進んでいないように感じる。
- 山科には公共交通機関の利便性向上という大きな課題があり、車の交通量を抑制するのは難しい。環境対策の前に、交通問題を解決しなければならないのではないかな。

## 【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

### 1 「第2期山科区基本計画」の進ちよく評価方法の見直しについて

#### (1) 区民アンケート(案)について

##### 《アンケート(案)全体について》

- 大学生は住民票を移していない人が多く、アンケートの対象から外れてしまう。別途、大学生に対してアンケートを行ってはどうか。

##### 《各設問について》

- 【問5】京都市全体の伝統産業についての質問と捉えられる場合があるので、山科の伝統産業品の具体例(清水焼, 仏具等)を記載しておいた方がよいのではないかな。
- 【問6】山科の農産物の具体例(山科なす, とうがらし等)を記載しておいた方がよいのではないかな。
- 【問11~問13】利用している人や、関心がある人しか答えることができないのではないかな。どのような施設等があるのかわからない人, 施設等を利用する意思がない人は回答が難しい。「分からない」の選択肢を設けるなど, 問い方を工夫するべきではないかな。

#### (2) 客観指標(案)について

- 観光基盤の整備の分野について、「食事施設の数」や「宿泊施設の数」を指標にしてはどうか。
- 「各観光施設におけるタクシーでの来場者数」などを指標にしてはどうか。
- 農業分野は、「生産量」に加えて、「売上高」や「農地面積」も指標になるのではないかな。
- 担い手分野については、「農業従事者数」や「家族の年齢」なども指標にすべきではないかな。
- まち歩き事業は、安全面などから、1回の事業で参加できる人数が決まっているため、「参加者数」ではなく、「実施回数」の方が指標としてふさわしいのではないかな。
- 文化芸術活動の振興分野について、「区内で行われているお祭りの来場者数」や「寺社仏閣への拝観者数」を指標にすべきではないかな。

## 【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

### 1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

#### (1) 区民アンケート（案）について

##### 《アンケート（案）全体について》

- 市民の生の意見を聞いていくという評価方法は良い方向性であり評価できる。
- 項目が多いので、減らす方向で修正してはどうか。

##### 《各設問について》

- 【問15・18】計画には、交通安全の項目があるが、アンケートにはない。問15と問18が似ているので、これを統合して「交通安全」を入れてはどうか。（統合したとしても、「景観」のキーワードが抜けやすいよう注意が必要）

#### (2) 客観指標（案）について

- 幹線道路の交通対策の分野について、市で5年に1回行う「交通量調査」のデータを指標として使用できるのではないかな。
- 歩行者ネットワークの整備の分野については、「歩道の整備状況」だけではなく、歩道がどのようにつながっているかの方が指標としてふさわしい。「バリアフリーになっている歩道の整備率」であれば意味があるのではないかな。
- 公共交通ネットワークの充実の分野について、「地下鉄の乗降客数」だけではなく、地下鉄から遠い地域と、山科がどうつながっているかの指標が必要ではないかな。
- 災害に強い都市構造の分野については、水害について指標が必要ではないかな。「区内の床下浸水数」や「町内で水害対策をしている町内会の数（土木事務所に土のう袋をもらいに来ている数）」が指標と考えられるのではないかな。
- 良好な景観の保全と創出の分野については、「違反数」は公表できないにしても、「違反数の増減」は指標にできるのではないかな。

### 2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 基本施策Ⅲを推進していくには予算が必要である。
- 自転車マナーの向上は、区内で熱心に取り組まれている。
- 「山科区公共交通利用促進協議会」にもっと多様なメンバーを入れ、山科全域について議論していくべきではないかな。
- 地下鉄の駅から遠いエリアへの交通対策を進めるべきではないかな。

## 【IV-① 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

### 1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

#### (1) 区民アンケート（案）について

##### 《アンケート（案）全体について》

- 設問の文言が当たり前すぎて漠然としていることから、「どちらとも言えない」という回答に集中することが考えられる。もう少し具体的な設問にすべきではないか。
- 学校教育の充実など、区基本計画とアンケート、客観指標が合致していない分野がある。計画に沿った形での設問が必要ではないか。
- 知らない人、分からない人が、そう思わないに○を付けることを防ぐために、「知らない」・「分からない」が選択肢にあった方がよいのではないか。

##### 《各設問について》

- 【問20・問22】両者は内容が被っており、どちらか1つのみで良いのではないか。問20を残すのであれば、未就学児対象であることを明記するべきではないか。

#### (2) 客観指標（案）について

- 高齢期の活動拡大の分野について、「老人クラブの会員数」が挙げられているが、そもそも、区内に老人クラブの対象者が何人いるのかも併せて押さえていく必要がある。また、フリースペースは、「設置数」だけでなく「利用者数」も指標にすべきではないか。
- 放課後児童対策の充実分野について、「児童館等の登録者数」は、対象者の人数も押さえておく必要があるのではないか。
- 青少年の健全育成の分野について、「青少年が行った地域ボランティアの数」を指標にするべきではないか。

### 2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 現在行われている取組だけでは、計画の推進に限界がある。「子ども食堂」など、問題解決のために、新たな仕組みを作る必要があるのではないか。
- 子育て支援は、いろいろな種類の支援を選べる方が良い。また、その情報を必要な人に提供することが大切ではないか。

## 【IV-② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

### 1 「第2期山科区基本計画」の進ちよく評価方法の見直しについて

#### (1) 区民アンケート(案)について

- 計画策定当時から、社会のニーズが変化してきており、計画の取組内容そのものが古くなっている。その遅れているものの実感を聞いても正しく現状が把握できるか疑問である。
- 福祉分野は、サービスを受けている当事者でないと、充実度は分からないのではないか。
- 設問の中に、福祉サービスの具体例を示してはどうか。
- 追加質問については、多様な意見を拾うため、自由記述欄の方がよいのではないか。
- 調査対象は、山科の実態を踏まえた年齢構成にするべきではないか。

#### (2) 客観指標(案)について

- 防災分野が福祉分野と密接に関わっているなど、地域において、ニーズや課題は複雑化している。行政分野で現状と課題を捉えていくことに限界があるのではないか。
- 子ども食堂など、公が実施主体ではない民間が行っている取組が増えている。計画の進捗状況において、民間独自の取組についてもフォローしていくべきではないか。

### 2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 施策や事業に積極的につながれる人とそうでない人との間で差が生じている。つながることができない人たちへのフォローが必要ではないか。

## 【V 地域のつながりを強める】

### 1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

#### (1) 区民アンケート（案）について

##### 《アンケート（案）全体について》

- 平易な言葉を使用する、イメージしやすいように、取組の事例を示すなど回答する区民の立場に立った設問の工夫が必要ではないか。
- 回答率3割では実感が把握し切れない。アンケート実施前に、若者世代を中心に、アンケートを実施することについて啓発を行うべきではないか。
- 回答の参考になる基本計画がホームページでしか見ることができないことは問題である。区役所に取りに来ればもらえるような1文を加えるべきではないか。

##### 《各設問について》

- 【問 24】「非行に走る」という文言は、山科のイメージを下げるため問題である。「非行防止の取組が充実している」などに変えるべきではないか。
- 【問 37】「困った時に相談できる人がいる仕組みが充実している」という分かりやすい表現に変えるべきではないか。
- 【問 38】防災訓練のほかに、日常の見守りや連絡網などの例示を記載すべきではないか。
- 【問 42～44】市民しんぶん以外に、行政情報をどのように収集しているかどうかの設問も設けるべきではないか。
- 【自由記述欄】行政に望むことだけでなく、一緒にやりたいことなども書けるようにするべきではないか。

#### (2) 客観指標（案）について

- 地域の福祉力の強化の分野について、社会福祉協議会の賛助会員数を指標に加えるべきではないか。
- 地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実の分野について、刑法犯認知件数は、マイナスイメージがある。それに代えて、あるいは、それに加えて地域で行っているパトロールの回数を指標に加えるべきではないか。

### 2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 担い手不足が課題である。学区によっては、20代・30代の親を、子どもが中学校卒業後も地域につなぎとめておく循環ができているところもある。そのようなすぐれた手法を他の学区に広げていくような機会を設けるべきではないか。
- 地域の担い手を育成するまでに、まずは、多世代が交流できるような場を活性化し、出会って話すことができる機会を作ることが必要ではないか。

## 平成 28 年度 第 2 回山科区民まちづくり会議 グループ別討議まとめ

### 【Ⅰ 環境を守り継ぐ】

#### 《アンケート結果や客観指標について》

- 全体的に好評価の数値が高いが、普段、美化活動などをしていても、山科のまちがきれいになってきているのを感じる。
- 環境分野については、少しでもきれいと思うと、「そう思う」と答える傾向があると考えられるため、「どちらとも言えない」の回答は、否定的な回答と捉えてもよいのではないか。
- 環境学習についての実感が低い。環境学習は子供向けというイメージがあるが、大人でも、機会があれば、参加したいと思っている区民は多くいるのではないか。区民まつりなど、人が多く集まる機会を利用してはどうか。

#### 《同分野の現状と課題》

- 今年度の途中から、ごみの収集時間が早くなった。自然とまちがきれいになったと感じている。
- 普段美化活動をしていて感じることは、川や水路にタバコの吸い殻が多く落ちていること。山科は交通の要所であることから、区外のドライバーなどが捨てていくことも多い。環境問題の改善のためには、市民のマナーの問題も同時に考えていく必要がある。

### 【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

#### 《アンケート結果や客観指標について》

- 設問 5 については、「伝統産業の後継者」という問いかけは、後継者問題の実情が一般の方に分かりにくいいため、「どちらとも言えない」が多くなるのではないか。「伝統産業品を普段使いしているか？」という趣旨の質問がよいのではないか。
- 設問 6 については、区内のスーパーなどで、日頃から地元の野菜が並んでいることが、高い実感につながっているのではないか。
- 設問 9 について、実感が低いのは、各種団体へのアプローチ方法が十分伝わっておらず、活躍する意思があっても機会がない方がいるのではないか。

#### 《同分野の現状と課題》

- 山科は観光地が点在しており、これらを公共交通機関で回りきれないことが誘客のネックとなっている。
- 山科には、古い街道が多く存在することから、街道自身を観光資源としていくという認識が必要である。
- 街道を観光資源とするには、ある程度のハード面の整備（外国語併記がある案内標記の整備、街道ごとに色分けしたレンガ敷きの道への舗装）や、「紙芝居」や「動画」を使用した街道が持つストーリー性の発信を行うことが必要である。
- 観光客に山科で消費をしていただく必要があるため、山科疏水付近、将軍塚付近、山科川沿い等で、季節限定でもお茶屋さんなどの出店があれば面白い。

### 【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

#### 《アンケート結果や客観指標について》

- 交通事故発生件数が減ってきているが、景気が悪く車の台数が減っているのが原因ではないか。
- 放置自転車の撤去台数が減ってきているのは、交通対策協議会が行う啓発活動などの取組の成果が出てきている結果である。
- パークアンドライドの指標は増えているが、観光客が増えると住環境が乱されることもある。住民側のメリットも考えていく必要がある。

#### 《同分野の現状と課題》

(道路)

- 道路整備、区画整理等都市計画が中途半端で終わっている部分が多い。グランドデザイン（全体的なプラン）を見直す必要がある。
- 稲荷山トンネルが無料になったらトンネル内（約4km）で渋滞する可能性があるのではないか。

(交通環境)

- 地下鉄が整備され、バスの本数が減り、地域ごとに利便性の格差ができています。例えば、音羽のような便利なところは住環境として人気が出ています。逆に不便になっているところもあり、問題です。これから高齢者が増えていくと、より大きな課題になってくる。
- 全て山科駅に集約するのではなく、山科駅へのアクセスが不便なところのことも考え、集約点を分散するようにしてほしい。いくつかの集約点に集まるネットワークの構築を望む。
- ハードの未整備部分を、見守り活動等、コミュニティの力（ソフト）でカバーしているのが山科の現状である。

### 【Ⅳ-① 保健・福祉・子育て支援を充実させる（福祉・高齢・障害分野）】

#### 《アンケート結果や客観指標について》

- 他の基本施策に比べて、無回答や「どちらとも言えない」という回答が多い。これは、問が抽象的で具体性に欠いているからではないか。例えば「若者の活動の場」という表現。「活動」とは何か、「場」とは何かという具体例を示さないと答えにくいのではないか。
- ごみ収集の職員の対応がよくなったとの声をよく聞かすが、そのような職員の対応を聞く設問を設けてもよいのではないか。

#### 《同分野の現状と課題》

- 山科では、高齢者が行う登下校時の見守り活動などが積極的に行われており、その結果として、子どもと地域との関わりという分野の評価が高かったのではないか。
- 高齢者の見守り活動などの分野においても、担い手不足が課題である。活動の継続性を担保するために、一人の中心人物に役割を集中させるのではなく、多くの担い手を育成し、複数人で役割を分担させる必要がある。
- 子どもに関わりがあるイベントをすると、どの世代からも喜ばれる。山科で世界中の人を集めた世界大会を開催してはどうか。

## 【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

### 《アンケート結果や客観指標について》

- 本分野（保育や高齢）の設問については、当事者や、周りにサービスの対象となる人がいないと状況がわからないのでアンケートに答えにくいのではないか。
- 高齢者福祉の評価が高めなのは、回答者に高齢者が多いからではないか。
- 区民アンケートで把握できない声を聞き取る努力が必要である。例えば、障害のある方や施設の利用者へ、「山科がよいまちになるにはどうしたい？」など、ポジティブな聞き方でアンケートやインタビューを行ってはどうか。

### 《同分野の現状と課題》

- 高齢者福祉は民間が経営していける制度となっているが、子育ては行政が関与しないと厳しいのではないか。
- 区民に実感持ってもらうにはどうしたらいいか。現場は、様々な施策や取組を「やってもやってもきりが無い」と感じている。例えば、児童館もほぼ全学区に設置され、保育所も数は充実してきているが評価されていない。犯罪件数の低下が治安の実感につながっていないように、実感してもらうのは難しい。実感を持ってもらうためには「見える化」が必要である。
- 「見える化」へのアイデア
  - ・ 山科区が「子育てしやすいまち、山科」を打ち出す。
  - ・ 広場や公園のある大型の子育て支援施設「チャイルドセンター」を設置し、子育て支援だけでなく、ママ向けの就労支援など「働く」について学ぶ場所とする。

## 【Ⅴ 地域のつながりを強める】

### 《アンケート結果や客観指標について》

- 警察や区民が熱心に取り組んでいるが、安心・安全の項目の実感が低く意外である。取組が区民の実感向上につながるには時間がかかるのではないか。
- なぜ“安心・安全ではない”と感じるのか。追跡調査を行い、区民に聞いてみたい。区民が求める“安心・安全”の求めるレベルが高すぎるのではないか。

### 《同分野の現状と課題》

(安心・安全)

- 実感向上につなげていくために、学区等で行っている様々な取組をより PR する必要がある。交番だよりの積極的な活用や、市民しんぶん区版の1面を利用した安心・安全の一大 PR（その後、区版3月号1面に掲載）を展開してはどうか。また、各学区で自主的に行っている防災や防犯の取組についても、もっと区民に PR していく必要があるのではないか。
- 実感の向上につなげていくためにも、現在行っている取組をしっかりと着実にやっていく必要がある。

(地域コミュニティ)

- 担い手不足と、担い手支援がどの学区でも課題である。大学生が新たな担い手にならないか。
- 消防団加入については、積極的な PR が効果を発揮し、加入する若い人が増えてきている。

## 京都市山科区民まちづくり会議要綱

## (目 的)

第 1 条 第 2 期山科区基本計画（以下「計画」という。）について、区民，地域団体，企業，事業者，大学及び行政等の「共汗・協働」により推進するとともに，山科ならではの地域力を活かした協働型のまちづくりを推進するため，専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的として，山科区民まちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）を開催する。

## (内 容)

第 2 条 まちづくり会議で意見を求める内容は次のとおりとする。

- (1) 計画全体の進行管理に関すること。
- (2) 計画に掲げる取組の進捗評価に関すること。
- (3) 計画に掲げる取組の達成評価に関すること。
- (4) 区民提案・共汗型まちづくり支援事業の推進に関すること。
- (5) その他計画の推進に関すること。

## (委 員)

第 3 条 まちづくり会議に参加する委員は，次に掲げる者のうちから，山科区長（以下「区長」という。）が依頼する。

- (1) 関係行政機関の職員
  - (2) 地域団体等から推薦を受けた者
  - (3) 学識経験のある者
  - (4) 前 3 号に掲げる者のほか，区長が適当と認める者
- 2 前項第 3 号の者のうちから依頼した委員は，学識委員として，専門的見地から意見を述べるものとする。

## (任 期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

- 2 委員は再任されることができる。

## (座長の指名等)

第 5 条 区長は，学識委員のうちから座長を，委員のうちから副座長を指名する。

- 2 座長は，まちづくり会議の進行をつかさどる。
- 3 座長に事故があるときは，副座長がその職務を代理する。

## (招集等)

第 6 条 まちづくり会議は，区長が招集する。

- 2 区長は，必要があると認めるときは，委員以外の者に対して，意見の陳述，説明，その他必要な協力を求めることができる。

(部 会)

第7条 区長は、第2条各号に掲げる内容について、より具体的な意見を求めるため、部会を開催することができる。

2 部会に参加する委員は、区長が依頼する。

3 区長は、部会の部会長及び副部会長を指名する。

4 部会は区長が招集する。

5 部会長は、部会の進行をつかさどる。

6 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代行する。

7 区長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、部会での意見の陳述、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(委 任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、まちづくり会議に関し必要な事項は、区長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(関係要綱の廃止)

2 山科区民まちづくり会議設置要綱（以下「旧要綱」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際現に旧要綱に基づく山科区民まちづくり会議（以下「旧まちづくり会議」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）にまちづくり会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、施行日における旧まちづくり会議の委員としての任期の残任期間とする。

4 この要綱の施行の際現に旧まちづくり会議の座長及び副座長である者は、施行日に第5条第1項の規定により区長に指名されたものとみなす。